2027年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年11月4日

上場会社名　ユタカフーズ株式会社　　上場取引所　東 名
コード番号　2806　URL https://www.yutakafoods.co.jp
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）橋本　淳
問合せ先責任者（役職名）業務部次長　（氏名）齋藤　幸治　TEL 0569-72-1231

半期報告書提出予定日　2026年11月13日　配当支払開始予定日　2026年12月7日
決算補足説明資料作成の有無　：　無
決算説明会開催の有無　：　無

（百万円未満切捨て）

1. 2027年3月期第2四半期（中間期）の業績（2026年4月1日～2026年9月30日）

(1) 経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期中間期	8,313	14.1	△67	―	24	△95.4	45	△88.0
2026年3月期中間期	7,285	1.5	430	16.6	526	19.3	375	22.7

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期中間期	6.48	―
2026年3月期中間期	54.03	―

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期中間期	26,634	23,363	87.7
2026年3月期	26,676	23,019	86.3

（参考）自己資本　2027年3月期中間期　23,363百万円　2026年3月期　23,019百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	―	20.00	―	20.00	40.00
2027年3月期	―	20.00			
2027年3月期（予想）			―	20.00	40.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 2027年 3月期の業績予想（2026年 4月 1日～2027年 3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,957	6.5	△304	―	△177	―	△160	―	△23.03

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有

※　注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無
② ①以外の会計方針の変更 ： 無
③ 会計上の見積りの変更 ： 無
④ 修正再表示 ： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年3月期中間期	8,832,311 株	2026年3月期	8,832,311 株
② 期末自己株式数	2027年3月期中間期	1,884,790 株	2026年3月期	1,884,790 株
③ 期中平均株式数（中間期）	2027年3月期中間期	6,947,521 株	2026年3月期中間期	6,947,591 株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいていおり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「1．経営成績等の概況（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 ……2
（１）当中間期の経営成績の概況 ……2
（２）当中間期の財政状態の概況 ……2
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 ……3
２．中間財務諸表及び主な注記 ……4
（１）中間貸借対照表 ……4
（２）中間損益計算書 ……6
（３）中間キャッシュ・フロー計算書 ……7
（４）中間財務諸表に関する注記事項 ……8
（継続企業の前提に関する注記） ……8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） ……8
（セグメント情報） ……8

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間におけるわが国経済は、賃上げによる所得の増加に伴い、景気が緩やかに回復をみせる一方で、中東情勢など地政学リスクの影響等により原材料、エネルギー価格の上昇による継続的な物価上昇が懸念され、先行きは不透明な状況が続いております。

食品業界におきましても、原材料コストの上昇は継続していき、厳しい経営環境が継続していくと見込まれます。

このような状況の中で、当社は2026年３月期からの中期経営計画において独自技術・設備を最大限に活用した商品展開、社会環境を踏まえた収益基盤の強化と安定稼働、持続的な企業価値の向上を目指す経営を基本方針として取り組んでおります。

以上の結果、当中間会計期間の売上高は8,313百万円（前年同期比14.1％増）、営業損失は67百万円（前年同期は営業利益430百万円）、経常利益は24百万円（前年同期比95.4％減）、中間純利益は45百万円（前年同期比88.0％減）となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

液体部門は、鰻のたれ関係の売上が伸び、売上高は2,781百万円（前年同期比5.7％増）となり、セグメント利益は215百万円（前年同期比126.2％増）となりました。

粉体部門は、顆粒製品の受託が伸び、売上高は2,625百万円（前年同期比6.7％増）となり、セグメント利益は249百万円（前年同期比47.5％増）となりました。

チルド食品部門は受託が増加し、売上高は1,387百万円（前年同期比46.1％増）となりましたが、新工場稼働に伴う減価償却費の増加によりセグメント損失566百万円（前年同期はセグメント利益151百万円）となりました。

即席麺部門は、受託製品が減少し、売上高は859百万円（前年同期比0.1％減）となりましたが、セグメント利益は16百万円（前年同期比137.0％増）となりました。

その他は、水産物の取扱が増加し、売上高は658百万円（前年同期比72.9％増）となり、セグメント利益は18百万円（前年同期比131.5％増）となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

当中間会計期間末における資産の部は26,634百万円となり、前事業年度末と比べ41百万円減少しました。これは主に、現金及び預金が1,941百万円、投資有価証券が634百万円増加し、その他流動資産が1,449百万円、短期貸付金が200百万円、建物(純額)が245百万円、機械及び装置（純額）が705百万円減少したことによるものであります。

負債の部は3,270百万円となり、前事業年度末と比べ385百万円減少しました。これは主に、繰延税金負債が209百万円増加し、その他流動負債が516百万円、退職給付引当金が55百万円減少したことによるものであります。

純資産の部は23,363百万円となり、前事業年度末と比べ343百万円増加しました。これは主に、その他有価証券評価差額金が437百万円増加し、利益剰余金が93百万円減少したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前事業年度末に比べ1,941百万円増加し、2,296百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間会計期間において営業活動により得られた資金は2,397百万円となり、前中間会計期間と比べ1,832百万円（324.3％）の増加となりました。営業活動で得られた資金の主な要因は、税引前中間純利益61百万円、減価償却費1,105百万円、未収消費税等の減少額1,469百万円による資金の増加、並びに退職給付引当金の減少額55百万円、売上債権の増加額51百万円、その他流動負債の減少額167百万円による資金の減少であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間会計期間において投資活動の結果使用した資金は316百万円となり、前中間会計期間と比べ1,841百万円（85.3％）の減少となりました。投資活動により使用した資金の主な要因は、有形固定資産の取得による支出531百万円、貸付金の回収による収入200百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間会計期間において財務活動の結果使用した資金は138百万円となり、前中間会計期間と比べ0百万円（0.7％）の減少となりました。なお、財務活動による支出は、主に配当金の支払によるものであります。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間会計期間において2026年５月15日に発表いたしました業績予想と営業利益を中心に乖離が生じたため、業績予想の修正を行いました。

売上高は堅調に推移したものの、利益につきましては、中東情勢の長期化による原材料価格の高騰(主にナフサ由来)が続いたことや為替相場の円安進行等の要因により、生産コストが想定以上に増加したこと等によるものであります。

通期業績予想につきましては、さらなるコスト削減のほか、販売価格の改定により利益改善に努めてまいりますが、第２四半期（中間期）の業績予想の修正による影響や、原材料価格の高騰が続く見通しのため、営業利益、経常利益及び当期純利益ともに前回予想を下回る見通しであります。

２．中間財務諸表及び主な注記

（１）中間貸借対照表

（単位：百万円）

	前事業年度 (2026年３月31日)	当中間会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	354	2,296
売掛金	2,008	2,060
商品及び製品	554	567
仕掛品	24	43
原材料及び貯蔵品	336	325
関係会社短期貸付金	200	－
その他	1,565	116
貸倒引当金	△7	△9
流動資産合計	5,036	5,398
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	9,652	9,407
機械及び装置（純額）	6,867	6,162
その他（純額）	1,751	1,675
有形固定資産合計	18,272	17,244
無形固定資産	227	221
投資その他の資産		
投資有価証券	2,967	3,601
その他	172	167
投資その他の資産合計	3,139	3,769
固定資産合計	21,639	21,235
資産合計	26,676	26,634

(単位：百万円)

	前事業年度 (2026年３月31日)	当中間会計期間 (2026年９月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,316	1,290
リース債務	0	―
未払法人税等	―	4
賞与引当金	155	157
役員賞与引当金	7	2
その他	939	423
流動負債合計	2,419	1,879
固定負債		
繰延税金負債	221	431
退職給付引当金	1,006	951
役員退職慰労引当金	8	8
固定負債合計	1,236	1,391
負債合計	3,656	3,270
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,160	1,160
資本剰余金	1,160	1,160
利益剰余金	22,693	22,599
自己株式	△3,458	△3,458
株主資本合計	21,555	21,462
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,463	1,901
評価・換算差額等合計	1,463	1,901
純資産合計	23,019	23,363
負債純資産合計	26,676	26,634

(2) 中間損益計算書

(単位：百万円)

	前中間会計期間 (自 2025年４月１日 至 2025年９月30日)	当中間会計期間 (自 2026年４月１日 至 2026年９月30日)
売上高	7,285	8,313
売上原価	6,445	7,948
売上総利益	839	364
販売費及び一般管理費		
運送費及び保管費	157	168
貸倒引当金繰入額	－	1
賞与引当金繰入額	20	21
役員賞与引当金繰入額	3	2
退職給付費用	8	3
役員退職慰労引当金繰入額	0	0
その他	219	232
販売費及び一般管理費合計	409	432
営業利益又は営業損失(△)	430	△67
営業外収益		
受取利息	29	3
受取配当金	58	72
雑収入	12	17
営業外収益合計	100	93
営業外費用		
賃貸費用	1	1
減価償却費	3	－
雑支出	0	0
営業外費用合計	4	1
経常利益	526	24
特別利益		
固定資産売却益	－	42
補助金収入	14	－
特別利益合計	14	42
特別損失		
固定資産除売却損	2	0
固定資産撤去費用	2	4
特別損失合計	4	4
税引前中間純利益	536	61
法人税、住民税及び事業税	152	3
法人税等調整額	8	13
法人税等合計	160	16
中間純利益	375	45

（３）中間キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	536	61
減価償却費	281	1,105
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△0	1
賞与引当金の増減額（△は減少）	5	2
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△10	△4
退職給付引当金の増減額（△は減少）	8	△55
前払年金費用の増減額（△は増加）	△2	△5
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	0	0
有形固定資産売却益	－	△42
有形固定資産除却損	2	0
有形固定資産撤去費用	2	4
受取利息及び受取配当金	△88	△75
売上債権の増減額（△は増加）	94	△51
棚卸資産の増減額（△は増加）	△51	△19
仕入債務の増減額（△は減少）	38	△26
未収消費税等の増減額（△は増加）	－	1,469
未払消費税等の増減額（△は減少）	△91	108
長期前払費用の増減額（△は増加）	△53	9
その他の流動資産の増減額（△は増加）	△9	△20
その他の流動負債の増減額（△は減少）	△54	△167
小計	610	2,295
利息及び配当金の受取額	88	75
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△133	25
営業活動によるキャッシュ・フロー	564	2,397
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△27	△1,000
定期預金の払戻による収入	43	1,000
貸付金の回収による収入	－	200
有形固定資産の取得による支出	△2,170	△531
有形固定資産の売却による収入	－	43
有形固定資産の除却による支出	△2	△4
無形固定資産の取得による支出	△0	△22
その他の支出	△0	△0
その他の収入	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,158	△316
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△0	△0
配当金の支払額	△139	△138
自己株式の純増減額（△は増加）	△0	－
財務活動によるキャッシュ・フロー	△139	△138
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△1,732	1,941
現金及び現金同等物の期首残高	2,529	354
現金及び現金同等物の中間期末残高	796	2,296

（４）中間財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報）

Ⅰ　前中間会計期間(自　2025年４月１日　至　2025年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他(注)１	合計(注)２
	液体	粉体	チルド食品	即席麺	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	2,632	2,461	949	860	6,904	381	7,285
外部顧客への売上高	2,632	2,461	949	860	6,904	381	7,285
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－	－
計	2,632	2,461	949	860	6,904	381	7,285
セグメント利益	95	169	151	6	422	8	430

（注）１　「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、商品（冷凍魚ほか）であります。

２　セグメント利益は、中間損益計算書の営業利益と一致しております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ　当中間会計期間(自　2026年４月１日　至　2026年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他(注)１	合計(注)２
	液体	粉体	チルド食品	即席麺	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	2,781	2,625	1,387	859	7,654	658	8,313
外部顧客への売上高	2,781	2,625	1,387	859	7,654	658	8,313
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－	－
計	2,781	2,625	1,387	859	7,654	658	8,313
セグメント利益又は損失(△)	215	249	△566	16	△86	18	△67

（注）１　「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、商品（冷凍魚ほか）であります。

２　セグメント利益は、中間損益計算書の営業損失と一致しております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。